

## プログラム解説

♫ ショパン(イザイ編):ワルツ 第14番 (原曲:ピアノ独奏曲)

ピアノの詩人として名高い作曲家ショパン(1810-1849)は、39年という短い生涯の中でノクターン、マズルカ、ポロネーズ、ワルツなど数多くのジャンルにわたってピアノ独奏曲を残すと同時に自身もピアニストとして大活躍をし、ピアノ音楽の新しい境地を開拓しました。ワルツについては有名な子犬のワルツ(第6番)をはじめ、生涯のうち作曲された21作品のうち、生前に出版されたのがわずかに8曲。本日演奏する14番目のワルツも、死後1868年に遺作として出版されました。本日はベルギー生まれの名ヴァイオリニスト、イザイの手によりヴァイオリンとピアノのために編曲された版を演奏します。

♫ ワックスマン:カルメン幻想曲 (原曲:ビゼー作曲オペラ「カルメン」より)

ドイツに生まれ、アメリカで主に映画音楽の作曲で活躍したワックスマン。このカルメン幻想曲も、元々は映画「ユーモレスク」のために作曲されました。フランスの作曲家、ビゼーによる不朽の名作オペラ「カルメン」を題材にし、独奏ヴァイオリンと管弦楽伴奏用のために書かれましたが、本日はピアノ伴奏で演奏いたします。カルメン幻想曲はサラサーテのものも有名ですがワックスマンのそれは、より劇的な曲想に仕上げられており、また違った魅力を持っています。

## Profile



わたなべ れいこ  
渡辺 玲子 (ヴァイオリン)

超絶的なテクニック、玲瓏で知的な音楽性、切れ味鋭い官能性と幅広いレパートリーで、世界のヴァイオリン界をリードする逸材。1984年ヴィオッティ、86年バガニーニ国際コンクールで最高位受賞。以来、ロンドン、ウィーン、ドレスデン、ワシントン、ロサンゼルス、サンクトペテルブルクなど世界のオーケストラと共演。ニューヨーク在住。使用楽器は、日本音楽財団より貸与された1736年製ガールネリ・デル・ジェス「ムンツ」。  
<http://www.reikowatanabe.com/>



えぐち あきら  
江口 玲 (ピアノ)

東京藝術大学音楽部作曲科卒業。ジュリアード音楽院のピアノ科大学院修士課程及びプロフェッショナルスタディーを修了。欧米及び日本をはじめとするアジア各国でのリサイタルや室内楽、協奏曲等で活躍する他、数多くのヴァイオリニストと共演を重ねている。現在、洗足学園音楽大学大学院客員教授、東京藝術大学ピアノ科准教授。ニューヨークと日本を歩き来して演奏活動を行っている。  
<http://www.akiraeguchi.com/>



## 北九州市ジュニアオーケストラ

1981年に発足。現在小学4年生から高校3年生までの約100名で構成されており、夏に行われる定期演奏会、団員の自主企画によるスプリングコンサートを活動の中心として日々の練習に励んでいる。

※第一部にて共演

<http://www.kicpac-music.jp/recruit/junior/index.html>

子どもたちのためのレクチャーコンサート

いざな

# 名曲への誘い

*Invitation to the Masterpieces*



渡辺 玲子  
[ヴァイオリン]

ガールネリ・デル・ジェス  
1736年製ヴァイオリン「ムンツ」

©Yuji Horii



江口 玲 [ピアノ]

2016年

2月7日 日

15:00開演

北九州市立響ホール

(北九州市八幡東区平野1-1-1 TEL093-662-4010)

北九州市ジュニアオーケストラ  
(※第一部にて共演)

主催：(公財) 北九州市芸術文化振興財団

共催：北九州市、北九州市教育委員会

特別協力：日本音楽財団

協力：日本財団

## プログラム解説

子どもたちのためのレクチャーコンサート「名曲への誘い」

### プログラム

#### ～第一部～

北九州市ジュニアオーケストラとの共演(ワークショップ)

J.S.バッハ：ヴァイオリン協奏曲 第2番 ホ長調 BWV1042より 第1楽章

ヴァイオリン・ソロ / 渡辺 玲子

～休憩～

#### ～第二部～

音に秘められたメッセージ

ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第7番 ハ短調 作品30-2より 第1楽章

ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ト長調 作品78より 第2楽章、第3楽章

ヴァイオリンのために編曲された名曲たち

J.S. バッハ/ウィルヘルミ編：G線上のアリア (原曲：管弦楽組曲 第3番より アリア)

エルンスト：シューベルトの「魔王」による大奇想曲 作品26

ラフマニノフ/江口玲編：「パガニーニの主題による狂詩曲」より

第18変奏 アンダンテ・カンタービレ ※ピアノ独奏

ブラームス/クライスラー編：ハンガリー舞曲 第17番 (原曲：ピアノ連弾)

ショパン/イザイ編：ワルツ 第14番 (原曲：ピアノ独奏曲)

ワグスマン：カルメン幻想曲 (原曲：ビゼー作曲オペラ「カルメン」より)

♫ ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第7番 ハ短調 作品30-2

ベートーヴェン(1770-1827)は10曲のヴァイオリン・ソナタを残して、およそ1800年頃に作曲された6番から8番は一連のものとして作品番号30番を与えられました。ともに時のロシア帝国皇帝・アレキサンドル1世に捧げられたためアレキサンダー・ソナタと呼ばれています。この第7番のソナタは、ベートーヴェンが残した名作、交響曲第5番《運命》やピアノ・ソナタ第8番《悲愴》と同じハ短調で書かれていて、雄大さや悲愴感といった彼の象徴的な作風が感じられます。これまでのヴァイオリン・ソナタはどちらかといえばピアノに音楽的な比重が置かれていましたが、この作品では完全に両者が対等に扱って書かれています。

♫ ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ト長調 作品78

ブラームス(1833-1897)はバッハ、ベートーヴェンと共にドイツ音楽における三大Bと称されるロマン派の大作曲家です。ブラームスが現代に残したヴァイオリン・ソナタは全部で3曲あり、この第1番は自身の同名の歌曲が引用されていることから《雨の歌》とも呼ばれています。1878年から1879年にかけて、ブラームス46歳の時に書かれました。この作品以前には友人のシューマン、ディートリヒとともに作曲したFAEソナタの他、少なくとも3曲はヴァイオリン・ソナタが作られたと推測されていますが、作品の出来に納得がいかず彼自身の手により破棄されたため現存していません。

♫ J.S. バッハ(ウィルヘルミ編)：G線上のアリア (原曲：管弦楽組曲 第3番より アリア)

音楽の父として知られているJ.S.バッハ(1685-1750)が1722年頃に作曲した「管弦楽組曲 第3番BWV1068」のなかの、弦楽合奏で演奏される第2曲「アリア」は、彼が書いた旋律のなかでもっとも清らかで優美なものといわれています。後に19世紀ドイツの名ヴァイオリニスト、ウィルヘルミが、ヴァイオリンのG線だけで演奏できるように編曲したことによって、「G線上のアリア」として広まることになりました。

♫ エルンスト：シューベルトの「魔王」による大奇想曲 作品26

エルンスト(1814-1865)は、オーストリア帝国(現在のチェコ)生まれのヴァイオリニスト、作曲家です。幼いころから神童と呼ばれ、超絶技巧のヴァイオリニストとして名高いパガニーニの後継者と言われるほど、その演奏は当時の人々を驚嘆させました。題名の通り、この曲はシューベルトの有名な歌曲「魔王」(歌、ピアノ)をヴァイオリンのみで演奏できるように、エルンストが大奇想曲として編曲した作品です。重音やフラジオレットなどの技巧を駆使しなければ演奏不可能な難曲です。

♫ ラフマニノフ(江口玲編)：「パガニーニの主題による狂詩曲」

作曲家、ピアニストとしてその名をロシア音楽史上に残したラフマニノフ(1873-1943)による、独奏ピアノとオーケストラによる協奏曲です。前述の通りヴァイオリニストとして広く名を馳せたパガニーニが残したヴァイオリン曲「24のカプリス」の主題と、24の部分からなるテーマの変奏部分とで構成されています。1934年、ストコフスキー指揮、フィラデルフィア管弦楽団とラフマニノフ自身のピアノ独奏により初演されました。本日はその中から流麗な旋律が印象的な第18変奏アンダンテ・カンタービレを、江口玲氏自身がピアノ独奏用に編曲した版で演奏します。

♫ ブラームス(クライスラー編)：ハンガリー舞曲 第17番 (原曲：ピアノ連弾)

ブラームスのハンガリー舞曲は、ハンガリーのロマ音楽を元に編曲された、全部で21曲の舞曲集です。1850年代前半、ヴァイオリニストのレメーニの伴奏者としてドイツ各地での演奏旅行を行った際、レメーニからロマの民族音楽を教えられたことが創作のきっかけと言われています。1869年に最初の曲集が出版されると、たちまち人気を博しました。今日でも様々な編成で演奏されています。原曲はピアノ連弾(四手用)ですが、オーストリア出身の世界的ヴァイオリニスト、クライスラーによって編曲された版を演奏します。